



株式会社 ジェピコ

林 千尋

私 は大学で言語系の学部を専攻していた為、宇宙業界との関わり及び知識は実は微塵もありませんでした。小さい頃にプラネタリウムに連れて行ってもらったのが嬉しい、とか祖父母のいる群馬県で彗星(赤色の彗星で22時頃肉眼で観測。真上より北西の方向。ヘール・ボップ彗星?)がくっきりと見えて感動した、という記憶はありますが、どちらかと言うと「宇宙はいつどうやってできたのだろうか?宇宙の端っこはどこに

あるのだろうか?」と哲学的なことを考える子供でした。

そんな私でしたが、うっすらと衛星通信に関心を持つような経験をしていたな、という出来事があります。

2010年、豪州へ約1年間留学をしました。そこでの体験を知人に見せようと、写真や動画をSNS上にアップロードしようと試みますが、あまりに時間がかかり過ぎる。。。また、日本ではYoutubeなどの動画をたくさん見ていたのに対し、ホームステイ先では「回線がすぐ遅くなって使えなくなるから動画はあんまり見ないでね。」と制限され、初めて海外での長期生活を体験して日本との使い勝手の違いに改めて驚いたのを覚えています。

2011年、無事帰国し就職活動を始めた頃、東北地方太平洋沖地震が起こりました。私は当時東京におり、大学に向かっている所でした。その時走っていたので、突然の強い揺れに一瞬「あれ、めまいかな?」と思いましたが、電柱は激しく揺れ、タクシーの運転手は車を降り、周りの人達はしゃがんで揺れに耐えている様子を見て、ただ事ではないと思いました。

徒歩40分程で私は家に辿り着くことができましたが、母親は自宅から離れた所に出かけており、携帯電話で連絡をしようにも全く繋がりませんでした。結局、バスを乗り継ぎ乗り継ぎ母も無事帰宅できましたが、携帯電話で連絡を取り合うことが当たり前になっている生活の中でこのような非常事態は大変な不安と不便さをもたらしました。

震災の為、その後少し時間が空きましたが、就職活動も再開され「英語を使って、世界と繋がる且つ日本のプレゼンスが上がるような大きな仕事がしたい!」と思っていた私は、御縁あって株式会社ジェピコの宇宙市場を担当する部署へお邪魔することとなりました。

ジェピコでは新入社員が約1か月の研修を終了後、テーマを1つ決めてプレゼンテーションをするという行事があります。部署配属前に行われるもので、テーマは個人で自由に設定することができます。私は、各部署紹介の際に聞いた、超高速インターネット衛星”きずな(WINDS)”のための移動体地球局を扱う部署に強く興味を持ち、「きずな(WINDS)”をテーマにしたプレゼンテーションを発表しました。

プレゼンテーション作成にあたり、その部署の上司に色々話を伺ったのですが、「日本は元々地上の通信回線網が非常に発達していて、通信衛星の活用や発展にはさほど力を入れていなかった。しかし、東北地方太平洋沖地震を経験してから、改めて通信衛星の存在が重要視され、再び衛星通信発展の計画が盛り込まれることとなった。」という事実を知りました。豪州留学時にインターネット回線に不便を感じたのは日本の地上通信回線網が発達していて、それが普通だと思って過ごしてきたからなのか、と納得した瞬間でし



▲移動体地球局(車載局、奥2台)と船舶搭載用アンテナターミナル(船舶架台、手前3台)

た。また、「被災地である東北地方にジェピコが納めた移動体地球局が出動したんだよ。」という話も聞いてとても感動し、自分もこの仕事に関わりたくて強く思いました。

そして入社2年目にしてその部署へ配属となり、念願の仕事に就くことができるようになりました。私がこの部署でプロジェクトに参加した当時、ジェピコから移動体地球局(車載局)が、顧客である国立研究開発法人 情報通信研究機構様(以下NICT様)へ2台完納→実験運用されており、また新たに船舶搭載用のアンテナターミナルを3台製造するという契約を締結する段階でした。車載局は、屋根に搭載されているHDカメラにて走行中に収集した災害情報を可視化し、災害対策本部とリアルタイムで共有できるため、迅速な対応を可能とします。高速道路で100km/hで走っても自動追尾できる仕様となっています。

アンテナターミナル(Ka帯)は豪州製で、設計・製造の打ち合わせの為豪州へ赴いたり、来日時にサポートしたりと、主に仕入先のインターフェースとしての役割に尽力していました。また、納入済みの移動体地球局を客先にて実際に運用し、データの取得、ソフトの追加、不具合対応、とメンテナンス作業も並行して行っていました。初心者の私にとって、実際の設計・製造・運用現場を間近で見ることが出来たのは非常に貴重な経験であり、大変勉強になりました。



▲NICT様、仕入先EM Solutionsと(オーストラリアにて、右端)

無事追加3台のアンテナターミナルも納入し、計5台のアンテナターミナルの保守・運用を行っているさ中、平成28年熊本地震が起きました。その際も被災地にNICT様の移動体地球局が出動したと聞いて、このような貢献度の高いプロジェクトに自分が微力ながらも携われたことにとっても嬉しく、誇らしい気持ちになりました。

現在は、海洋資源調査の為の次世代衛星通信技術に関する研究開発というプロジェクトが動いています。このプロジェクトの目的は、メタンハイドレード、海底熱水鉱床等、将来の国産資源として期待される海底資源の調査の高速化及び高効率化に貢献する



▲実験中(高知県庁にて)

こと。ま

た、船

舶の運航管理、船舶におけるブロードバンドサービス等のさらなる高度化、海上の遠隔監視も目指しています。学生の頃の夢である、外国企業と協力し日本の為になる仕事に携わることができて、私の夢は叶ったと言えます。

今後ますます衛星通信が発展し、民間でも当たり前のように使われるようになる時代が到来し、更に便利な世界が構築されることを期待しています。☑



▲海上実験準備(横浜にて)